

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市将監児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 22,815人(前年度比 109.4%) 令和5年度 20,850人 令和4年度 20,058人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 40,138千円(37,753千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
重点目標として「家庭と協力しながら、自分の気持ちを表現し、地域の一員として自立して生活する力を育む」を掲げ、本来の児童館機能を取り戻し、子ども達が多種多様な体験ができるよう地域の方々にご協力頂きながら事業に取り組んでいます。「児童健全育成事業」では、当地区ならではの中学生ボランティアを活用し、壁面制作・おもちゃ作り等中学生が自ら企画をし、話し合いをしながら作り上げた遊びで交流を図っています。又50周年記念まつりとして併設のサンホームとの共催により実施した、「サンサン・かっきーランド」は子ども達が制作した子ども神輿の登場等もあり中学生ボランティアや民生委員・児童クラブ保護者の協力のもと、幅広い年齢層のコミュニティの輪を広げる機会となっています。「子育て家庭支援事業」では、隣接のコスモス将監保育園や併設のサンホームと連携し、多様な育児相談に対応しながらの親子ふれあい遊びやベビーマッサージ・子育て講話等を行い、母親の孤立や不安感解消や仲間づくりに貢献しています。さらに地域の子育て支援クラブ・人形劇サークル・読み聞かせボランティアと連携し、交流を図りながら親のリフレッシュの場、親子の愛着関係を築く場の提供を行っています。「地域交流推進事業」では、将監児童センター・将監西児童館と3館で協力して幼児親子対象の七夕工作や外部講師による運動あそび・仙台七夕の小竹飾り作りを行うなど、学区を超えた交流を図る取組を推進しています。又、小学生対象では“子ども神輿作品”“ミッキーダンス”等学んだ結果を市民センター祭りで発表することによって世代間交流しながら達成感や自己肯定感を高める活動を行っています。「放課後健全育成事業」では、食育講座を開催し、朝食の大切さを学び、また、多様なペットとのふれあい体験により、動物観察・心音の聴取を行い、命の大切さを知り、弱いものを思いやる気持ちを醸成しています。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、こども達の意見を受けて季節の工作や室内遊びを提供する「パチパチタイム」、集団遊びや運動遊びを提供する「パチスポタイム」を毎月実施している。アンケートの結果を反映させて活動の内容を決める等、こどもの意見を尊重した環境構成や支援を行っている。活動を通して異年齢交流が図られると共に、制作物を遊びに展開させたり集団遊びや運動遊びが日常の遊びに発展されるなど、日々の遊びの充実に繋がっている。中高生タイムを土曜日は終日に変更し、50周年行事のチラシを中学校を通して全戸配布して利用促進に努めている。 子育て家庭支援事業においては、乳幼児クラブを当日迄可能な申込制として実施した。子育て支援クラブとの共催で保護者のリフレッシュや保護者同士の交流の場を提供したり、地域のボランティア団体の協力のもと、人形劇や読み聞かせ等親子で楽しみながらこども達の豊かな感性を育む支援を行っている。併設の仙台市サンホームや近隣の保育園の子育て支援室、子育て支援クラブと連携して保護者のニーズにあった充実した事業が継続的に展開されており、関係機関と連携しながら地域が一体となつてこどもと子育て家庭の支援に取り組んでいる。 地域交流推進事業においては、児童館開設50周年に当たる令和6年度は、市民センター、将監中学校「COCO活」、子育て支援クラブ、民生委員児童委員協議会、地域住民など多くの協力を得ながら、サンホームと共催で児童館まつりを開催し、多数の来館者があつた。児童館の歴史を伝えたり、こどもがコーナーの一つを企画運営するなど、行事を通して児童館事業への認知向上や関係機関との連携強化に努めている。また、花壇作りを、サンホームや地域住民と共にこども達が行っており、世代間交流が図られる機会となった。 放課後児童健全育成事業においては、遊びを通して異年齢交流が図られるよう縦割り活動を取り入れている。令和6年度は自分の気持ちを伝える支援の一つとして、日常の生活や遊びの中での気づきや課題に対して話し合う「集会」を取り入れた。司会を職員からこどもに変更するなど環境を整え、こども達の主体性を育む支援を行っている。また、児童館でのヒヤリハットが発生した際に、掲示してある館内図の場所にシールを貼ってこども達と共有し、事故防止に努めている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課